

## 3 節 ヨーロッパの動乱の波及

★このプリントは解説スライドを含め授業 1 時間分の学習に相当します。

Q. フランス革命はラテンアメリカ諸国やオスマン帝国にどのような影響を与えたのか？

☆作業 1&lt;知識と理解&gt;教科書を参照しながら、空欄を埋めなさい。

1 ラテンアメリカ  
諸国の独立

教科書 p. 92-93

## ■ハイチの独立

- ①反乱の発生——フランス領サン・ドマング（〔①〕生産で繁栄）で黒人奴隷の反乱が発生（1791）
- ②経過——〔②〕の指導で解放→フランスの国民公会が奴隷制廃止宣言（1794）→〔③〕が奴隷制復活→抵抗→〔④〕として独立宣言（1804）（ラテンアメリカ最初の独立国家）

## ■奴隷貿易廃止へ

- ①奴隷制批判の動き——〔⑤〕やキリスト教人道主義の影響
- ②奴隷貿易の禁止——イギリス議会で決定（1807）→奴隷制は廃止されず

## ■ラテンアメリカの独立運動

- ①独立の背景——
- （ア）〔⑥〕の独立や〔⑦〕の影響→〔⑧〕（植民地生まれの白人）たちが独立を求める
- （イ）ナポレオンによるポルトガル・〔⑨〕本国の支配
- ②植民地の独立——1830 年代までにほとんどの地域が独立を達成
- （ア）北部——〔⑩〕らがベネズエラの独立を宣言（1811）
- （イ）南部——サン・マルティンらがアルゼンチンなどの独立を指導
- （ウ）〔⑪〕——ポルトガルから独立（1822）
- ③独立後の問題——大土地所有者の〔⑧〕の利害優先、軍事の実力者の〔⑫〕の台頭

## ■合衆国の拡大

- ①ルイジアナ購入（1803）——ナポレオンから購入→広大なフロンティアを獲得
- ②〔⑬〕（1812~14）——合衆国の国民意識を高め、国の基盤強化
- ③〔⑭〕宣言（1823）——アメリカ大陸からヨーロッパ諸国の干渉を排除→合衆国の外交政策の基調に

☆&lt;作業 2&gt;知識の統合「ラテンアメリカの独立運動は、アメリカ独立革命やフランス革命及びナポレオン戦争と連動した大西洋革命の一環として考えることができる。」

以下の資料を参考に、①サン・ドマング（ハイチ）独立②クリオーリオの台頭にも言及しながらこの主張を正当化しなさい。

まず、スペイン本国がナポレオンによって倒されたことは、中南米に独立のきっかけを与えた。さらに啓蒙思想が流入し、合衆国に独立宣言や憲法、フランス人権宣言とともに植民地知識人に独立への思想的背景を形成させた。またハイチの黒人革命は中南米地域に独立の機運をもたらすとともに、クリオーリオに自らを主体とする独立の必要性を認識させるものとなった。そして、産業革命期のイギリスは中南米との自由貿易を望んで独立を支持し、スペインを支えるフランスの介入を終始牽制した。

☆<作業2>応用と分析 モンロー宣言(教書)とは1823年合衆国大統領モンローが発表した、アメリカの基本外交方針を表すもの。**アメリカ合衆国はヨーロッパ諸国に干渉しないが、同時にアメリカ大陸全域に対するヨーロッパ諸国の干渉にも反対する**、という思想であった。

下はモンロー宣言を表した風刺画である。以下の視点から分析しなさい。(1)風刺画にある男性はどこの国を表しているか(2)この風刺画はどの国や地域の視点でモンロー宣言を表しているか(3)この風刺画はモンロー宣言についてどのようなメッセージを発しているか。

